

まちファン

5号

2005年11月1日



あなたの住んでる
まちの香りを見つけよう

車社会の中で生きる現代人は、
すべてのモノがスピード化にのり、
なんのためらいもなく、テンポよく流れる毎日をすごしている。

私たちは今まさに、人間のスピードに対する可能性と限界の狭間で
生きているのではないかと。

そんな時、ひと歩き、社会に戻る事ができるのなら、
今まで置き去りにされていったまちの景色
(何気ないまちの香りや歴史、家並みや人の素顔)に
もう一度出会ってみたい。

人は、便利で豊かな生活を望み、
よりスピーディーに、よりシンプルに、
物事が整えられていく傾向の中で、
人にとって、とても大事な営みを忘れてきている。

こんな時期だからこそ、「まちづくり」には、
“人サイズのスピード”を意識した生活が大切なのではないだろうか。

● 公益信託 「高知市まちづくりファンド」とは ●

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学び場になることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一步」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円（活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成）

審査方法 書類審査で助成先を決定します。

助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{3}{4}$ 以内で、上限30万円。

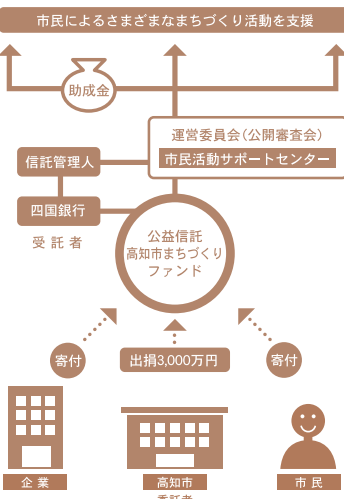
審査方法 公開審査会において、応募団体は活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

四国銀行コメント

株式会社四国銀行
営業統括部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていくなめのお手伝いができるよう努めていきます。事業の実施に際しましては、市民グループのみならずご協力をお願い申し上げます。

私たちがお手伝いしています。



NPO 高知市民会議コメント

高知市市民活動
サポートセンターの運営主体

高知市市民活動サポートセンターで、センターの運営や市民活動を活性化させる様々な事業を実施しています。皆様の思いの実現と、今後の活動を大いに活かすことができよう、まちづくりファンドの事務局をしっかりと担っていきたく思います。市民活動に関するものでしたら、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは、 皆様がまちづくり活動を 支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも長くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆様のご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
営業統括部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話：088-823-2111（代表）

088-871-2178（直通）

FAX：088-824-0431

高知市 市民活動 サポート センター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を特定非営利活動法人「NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。



まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、中間発表会の後になります。

2006年度のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。
場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

助成 第3 期 発表 会	中間発表会	1月28日(土)
	最終活動報告書の提出期限	7月19日(水)
助成 第4 期 発表 会	最終発表会	7月29日(土)
	応募受付期間	5月20日(土)~6月20日(火)
	公開審査会	7月30日(日)

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665

E-mail: npokochi@siminkaigi.com [URL] http://www.siminkaigi.com



2005年度

公益信託 高知市まちづくりファンド

第3回 公開審査会

公開審査会の流れ

2005年7月31日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド・第3回公開審査会」には、応募団体、一般合わせて、約90名が参加しました。「まちづくりはじめの一步」コースには5団体の応募があり、その全事業が、また「まちづくり一歩前へ」コースには16団体の応募があり、うち11団体の事業が助成を受けることになりました。公開審査はそれぞれ次の過程で行われ、下記結果表のとおり決定しました。

「まちづくりはじめの一步」コース



1 審査

事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会場で発表



2 団体の活動紹介

助成対象となった団体による事業内容の説明

「まちづくりはじめの一步」コース結果表 (助成先5団体)

グループ名	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1 関いきいき百歳体操会	5	5
2 高齢者の健康と福祉を考える会	5	5
3 学援隊 (G. E. T)	5	5
4 育児サークル「ドリーム・キッズ」	5	5
5 鴨部げんきか	5	5
助成額合計		25

「まちづくり一歩前へ」コース結果表 (助成先11団体)

グループ名	活動計画内容に支持し、今回のサポート助成が必要だと考える	活動内容についてもう少し、社会的に意義のある活動を聞き、今回のサポート、たが、サポート助成を助成が必要と判断したい	今回の助成対象として推薦する	申請額 (万円)	助成額 (万円)
1 高知いのちの電話協会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●	30	30
2 若草ほのぼのの会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●	14.5	14.5
3 御霊瀨ひもの祭り実行委員会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●●●	23	23
4 伝統文化いげばなこども教室	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●	30	-
5 こうち学生ボランティアネットワーク「ボラの会」	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●●●	15	15
6 特定非営利活動法人 高知市こども劇場	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●	10	10
7 高知・家庭少年友の会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●	30	-
8 みんなで集まれる場をつくらう会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●	30	30
9 楠谷川の自然を守る会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●	30	30
10 土佐観光ガイドボランティア協会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●	30	-
11 NPO法人 要約筆記高知・やまもも	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●	16.5	16.5
12 横浜体育会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●	30	-
13 高知演劇ネットワーク・演会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●●●	30	30
14 特定非営利活動法人 訪問理美容ネットワークゆうゆう	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●	30	-
15 33フォーラム+劇団33番地	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●	30	30
16 発達障害等親の会「KOSEI」	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●●●	30	30
助成額合計					259

「まちづくり一歩前へ」コース



1 プレゼンテーション

各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答



2 一次判断

各運営委員が各応募事業についてそれぞれ次の3段階の判断をする
 a) 助成が必要だと考える
 b) 内容についてももう少し話を聞き、判断したい
 c) 社会的に意義のある活動だが、助成趣旨にはなじみにくいと判断する



3 質疑

一次判断でb)、c)が多い事業への質疑応答



4 最終判断 助成事業・金額の決定

各運営委員が7事業を選び、助成対象として推薦する。結果、複数の運営委員から推薦された事業が助成先に決定。助成金額は申請額と同額で、減額はなし

「まちづくりはじめの一步」コース

● プレゼンテーション ●

活動テーマ group.1 継続は力なり 関いきいき百歳体操会



高知市の「百歳いきいき体操」を大津地区で始めて3年目。健康維持と人の輪をつくるために実施しているが、楽しく続けていくために、3B体操とミュージックケアを3か月に1度、取り入れてみた。結果、体操を再開する人、新しく始める人も出てきたので、さらに2か月に1度の割合で、参加者が楽しく継続できるように実施していきたい。

■ 運営委員：半田

百歳体操だけでなくなかなか集まりにくい人々を、別の手法で対象を広げていこうとする視点が素晴らしいと思う。ただ、今回、申請内容が講師謝金という点で、この助成が終わった後も継続できるように、費用面における自立の基盤をこの1年間でつくってほしい。

活動テーマ group.2 空き家を地域住民のために活用した地域おこし 高齢者の健康と福祉を考える会



核家族化が定着した現在、高齢者世帯、とりわけ、独居世帯が増えている。人生の後期を迎えた高齢者がいきいきと輝いて、その人らしい人生を送るためには、家族や親しい友人と共に、住み慣れた環境の中で、生きがいをもって過ごすことが大切だと考える。そのために、増え続ける空き家を高齢者と要介護者などの団楽や趣味、娯楽を楽しむ施設として活用して、地域おこしを図りたい。

■ 運営委員：畠中

空き家を地域の拠点として、人のつながりを創っていくところを評価したい。加賀野井団地でも、空家が増えてきているようなので、「この空き家をどう活用しようか」という形で、空き家がネットワークされていくといいと思う。

活動テーマ group.3 子ども学習支援 学援隊 (G. E. T)



教員志望の大学生のグループで、現在、高知市教育委員会と協力し、小中学校で放課後や授業に入り、子どもの学習支援を行っている。教員志望の大学生にも、勉強を教えてもらう小中学生にも、学校側にもメリットがある。さらに、保護者や地域の方が子どもたちの学習を支援しようという思いを引き起こすことになれば、まちづくりにもつながっていくと思う。

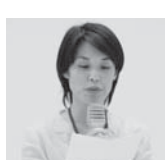
■ 運営委員：増田

取り組みを進めるにあたり、企画書づくりは重要なポイント。また、まちづくりと教育の接点を見つけたことで、地域を巻き込んだ活動にも発展していくのではないだろうか。

■ 運営委員：玉里

非常に素晴らしい取り組みだと評価している。大学生と小中学校を線で結ぶだけではなく、保護者や生徒のニーズを図る社会的調査をして、毎月の勉強会などにつなげてほしい。

活動テーマ group.4 ママの笑顔は子どものしあわせ！子どもの笑顔はママのしあわせ！ 育児サークル「ドリーム・キッズ」



弥右衛門ふれあいセンターを拠点に月3回、約45名の親子が集う活動をしている。託児を設け、ママがリフレッシュできるように、フラワーアレンジメント、料理、救命救急講習受講等を実施して、交流を図っている。今回の助成金は、ママのための貸し出し用図書の購入に一部充てることを考えている。毎回有意義な時間になるように、月1回のスタッフミーティングで知恵を出し合い、準備・運営をしている。

■ 運営委員：田岡

このようなグループが出てきて、大変うれしい。丁寧な計画書は、非常に分かりやすかった。これからの活動については、何か自分たちで「創る」ことも考えてみてほしい。飛躍のための一歩としてファンドを活用してほしい。

活動テーマ group.5 みんなでふれあういきいき体操 鴨部げんきかい



生まれればかりの会で、「いきいき体操」を通して、地域の人たちが交流できるような場を作ることができ、大変喜んでいる。86歳の女性が先日、「家にいつも1人なので、来てよかった。楽しい」と笑顔で話してくださり、とても嬉しかった。将来はミニデイの形式で、誕生会をしたり、童謡を歌ったり、保健師さんの話を聞いたりするような活動をしたと思う。「いつも行きたい」と思ってもらえるような、皆が楽しく集える場として続けていきたい。

■ 運営委員：玖波井

助成金をテレビデオの修理や椅子の購入などに使われるようだが、今後はそういうハード面をこえて、ネットワークを広げたり、参加者を増やしたりするソフト面の方にも、どんどん発展していただきたい。

「まちづくり一歩前へ」コース

● プレゼンテーション ●

活動テーマ いのちの電話相談

group.1 高知いのちの電話協会



●アメリカにおいて、一人の少女の自殺がきっかけで、個人が抱えている深刻な問題に対応すべく、「いのちの電話」が発足した。日本では1971年に東京で、

高知では1999年に開設され、以来500件近い電話に対応した。相談は、病院も身内も受け付けてもらえない精神障害の方がほとんどで、その他、自殺やサラ金、ドメスティックバイオレンスなどの問題等にも研修を行い、対応している。今後、現在の12時間対応を24時間眠らないダイヤル」としての活動としていくために、一生懸命、研修会をされている。また、現在事務所を探している。

Q&A

- Q 助成金の主な使途は？
- A 相談員の養成講座における講師謝金と、相談員への切手代、事務所の確保は？
- A 無料で、駐車場、相談室と事務室の2室があり、しかも中心街という希望なので、なかなか難しい。

実行記録

運営委員：半田 地道に行う継続的な活動であり、資金確保に苦労するのが理解できる。

運営委員：増田 ストレス社会の中で、誰も言えない不安と日々向かい合い、その気持ちを受け止めてくれるこの活動は、とても重要な役割を担っている。

運営委員：畠中 見えてくる様々な課題を地域や学校・家庭に伝えるような働きかけができないだろうか？

活動テーマ 若草ミニディサービス

group.2 若草ほのぼのの会



●私たちの目的は、高齢者の社会的孤立感の解消と心身機能低下予防、健康の維持で、運営は地域住民で行っている。協力団体は、各町内会、自治会、老人

クラブ、民生委員、高知市の在宅介護支援センターあさくら。行事は、若草町内のお医者さんによる健康相談や、化粧品屋さんによる高齢者の美容教室。また、いきいき百歳体操も実施している。特に、12月の餅つきは、高齢者と地域の小学生、その保護者の、いわゆる3世代の交流を図る事業として実施している。行事は月1回。ただし、健康教室は週2回実施。

Q&A

- Q 昨年と今年度の企画の内容で、最も違う点は何か？
- A 健康教室と3世代の交流。参加者は近隣の高齢者も交えた交流にしたいと思う。
- Q 高齢者が自宅に閉じこもるのを防ぐために、地域でこういう活動をされることは非常に素晴らしいと思う。ファンドの助成が終わった後の継続の見通しは？
- A 自分たちの体力をつけて、ファンドがなくなっても、ずっとやっていたりするようにしていきたいと思う。

実行記録

運営委員：畠中 まじめな内容の時に人が集まらないなら、行楽的な楽しい行事の時に、まじめな内容もセットするというやり方もある。

運営委員：堀 今後の運営費をどう捻出していくか、もう一歩踏み込んでみてほしい。

活動テーマ 御豊瀬地域のお祭りによる活性化とまちづくり

group.3 御豊瀬ひもの祭り実行委員会



●御豊瀬は漁業が盛んな小さなまちで、「みんなにおいしい干物を食べてもらいたい」、「絵になるレトロなまちを見てもらいたい」、「お年寄り」と子どもの交

流の場としたい。「屋台を出そう」などの声から、干物の試食、ガイドブック作成、地産地消、まち全体のテーマパーク化、シーフードの屋台などの事業をするために、この実行委員会を立ち上げた。昨年、金子しゅうめいさんによる獅子舞のワークショップで子どもたちがダンボールで獅子頭をつくり、まちを練り歩いた。今年は、獅子頭のコンテストもやってみようと思う。

Q&A

- Q なぜ獅子舞か？
- A 去年実施したワークショップが好評だった。しかし、干物を売るだけでは、人はなかなか来てくれない。獅子舞の練り歩きは高知の中でも珍しく、古くて新しい。お年寄りから子どもまで、みんな喜び活動なので、これを根付かせたいと思う。
- Q 助成が下りなかった場合は？
- A 他の団体と割り勘で実施ということも考えている。獅子頭踊りではなく、練り歩くだけならできると思う。

実行記録

運営委員：木村 漁師の平均年齢も70歳を越え、子どもも少なく、「漁師のまち」が薄れていく。例えば、桂浜から船を渡すなど、行政に対するアクションも起こしていくといいと思う。

活動テーマ 伝統文化いけばな子ども教室

group.4 伝統文化いけばな子ども教室



●文化庁の伝統文化活性化国民協会のもと、2003年度より実施されている事業。日本の伝統文化を確実に継承し、発展させると共に、子どもたちに歴史や、

伝統文化に対する関心、理解を高めてもらい、豊かな人間性を育むことを目的としている。月2回、生け花だけではなく、礼儀作法も身に付けている。2004年3月には、修了花展を新築橋プラザにて開催し、大変喜ばれた。感動する心、命あるものを大切に、そんな心を幼少の頃から育みたいと願い、「すべてに家庭に生け花を」というキャッチフレーズで活動している。

Q&A

- Q お花の道具の調達方法と、道具の使い回しはできるのか？
- A 1人に1つ。剣山と花器とはさみは特殊なものがあるので、今までは安いものを買っていた。長持ちするので、何年でも使える。
- Q 花展をする会場は無料のところを探そうなど、工夫はしているか？
- A 月に2回、使用する剣山、花器を常時置ける会場で、無料のところはない。修了花展は生徒の励みになるので、欠かすことはできない。

実行記録

運営委員：田岡 お花を知らない方にも良さを分かってもらえるような企画を考えてみてはどうだろうか。

活動テーマ 学生を対象としたボランティア学習イベント（ボランティアキャンパス）の開催

group.5 こうち学生ボランティアネットワーク「ボラの会」



●ボラの会は「ボランティアがほしい」という方々と、「ボランティアをしたい」という学生たちを結び組織として誕生した。発足してから1年が経過。現在

会員は約100名。ボランティアの仲介役、コーディネート役となり、情報発信を行っている。年に一度、「ボラキャン」という学生を対象としたボランティア学習イベントを開催。これは、ボラの会を通して集まった学生たちが実行委員となり、参加者全員がボランティアについて共に学び、考え、体験できる貴重なイベントとなっている。多くの学生にとってボランティアを始めるきっかけとなれば良いと思う。

Q&A

- Q なぜ、昨年は参加者が少なかったのか。
- A 広報が充分ではなかった。また、開催時期も人が集まりにくい時期であった。
- Q 年代の幅がもっと広がる予定は？
- A 学生が定着してくれば、どんどん大きしていきたいが、まずは学生。
- Q 講師はどういう方を呼びたいのか？
- A ボランティアに携わっている人や学生、日常的に活動している団体呼びたい。

実行記録

運営委員：田岡 実践につながる企画や仕組みについても、是非検討してほしい。

運営委員：堀 多種多様なボランティアに対応できるよう、人材確保のネットワークを広げてほしい。

活動テーマ 少年の健全育成のための活動

group.7 高知・家庭少年友の会



●家庭裁判所で取り扱う家事および少年事件について、家庭の平和、少年の福祉更生のために協力することを目的として、1993年10月に設立。会員数は

140名。本年度は「青少年の健全育成のための活動」をテーマに活動している。主な活動内容は、付添部：少年が審判を受ける時、保護者として十分でない場合に、保護者の立場で付添人としての意見を述べる。交通部：業務上過失事件の委託講習。援護部：少年の社会奉仕活動の援助。その他に会報を発行したり、会員の資質向上のために、研修等を行っている。

Q&A

- Q この活動の情報提供の仕組みは？
- A 広報紙発行は年に1回。県、市、関係機関に送っている。非行化した少年の更生が主なので、個人情報保護もあり、広く情報提供は難しい側面がある。
- Q 家庭裁判所の業務との関連は？
- A 私たちが間に入ることで、ワークショップおくことができ、少年によっては立ち直りの機会を与え、処分をしないという審判になることもある。

実行記録

運営委員：畠中 個人情報保護の問題に配慮したうえで、少年を取り巻く課題を一般化して、地域の方に知っていただくことも必要だと思ふ。

活動テーマ 縦のつながりによる豊かな心教育 一歩にとどく憧れ〜

group.6 特定非営利活動法人 高知市子ども劇場



●1971年、こどもの巣立ちを考える大人が集い、子ども劇場が誕生した。2005年法人格を取得。35年間続けてきた活動を基に、会員の思いや、社会のニーズに

合うさまざまな企画を立てていきたい。今回の事業は、「縦のつながりによる豊かな心教育、一歩にとどく憧れ」をテーマに、子どもたちの年齢を超えたつながりをつくる体験活動に焦点を当てて取り組む事業にした。子どもたちが高校生や青年の姿を、当てる取り組みもしている。子どもたちが高校生や青年の姿を、「手にとどく憧れ」としてとらえ、仲間と動く楽しさと責任感を学び成長していく事業にしていきたい。

Q&A

- Q 若い人たちにまかせる企画とは？
- A 高学年キャンプを高校生と青年が加わり、5〜10人の「高校青会議」で話し合い、企画していく。
- Q 宿舎に参加する人は会員以外の人いるのか？
- A 会員に限らず参加できる。
- Q テントやコンロの新規購入はなぜ？
- A 35年間やってきて、使えなくなったり、足りなくなったり。

実行記録

運営委員：堀 これまで自分で調達していた備品を購入するにあたって、例えば、バザーなどの収益を積み立てるなどの計画や工夫も検討してほしい。

活動テーマ 地域元気づくり みんながあつまれる場をつくるう！

group.8 みんなで集まれる場をつくらう会



●こうち生協で実施した福祉のアンケートを基に、有志を中心に生協の役員や、有志を募り、地域で集まれる場をつくらう会を立ち上げた。21世紀は地域福祉の時代イコール地域住民同士の共生が

問われる時代。地域住民が気兼ねなく誰もが集まれる場、ともに支え合うコミュニティの場が不可欠と考える。「私の元気がみんなの元気、みんなの元気が私の元気」「みんなが主人公」をキーワードに、みんなが活躍できる居場所づくりが理想。畑や料理作りなどの交流から、将来は、小規模多機能施設、食育サービス、延長児童保育、デイサービス、そしてヘルパーステーションの併設も目指したい。

Q&A

- Q 生協のメンバーによる団体だが、利用者は？地域の人の理解はどのように図るのか？
- A メンバーは生協中心だが、最終的には女子学生など若い方の視点も取り入れていきたい。地域の生協組合員の暮らしが良くなるということは、地域が良くなるということ。利用者は地域の方も隔たりにくく参加していただきたい。生協の配達、地域を歩いてのお知らせ、高知市関係の広報で理解していただくことを考えている。

実行記録

運営委員：堀 生協という枠組みのあるイメージを、周囲に対して、どのように取っ払っていくか、いかに広がりをもたせていくかが大切なポイントだと思う。

活動テーマ 子ども達と共にほたるの飛び交う自然公園を目指して
group.9 楠谷川の自然を守る会



りとなっている。楠谷川上流は、高知自動車道の建設に伴い、ほたるも年を重ねることに減少している。そこで流域の休耕田を借り、昨年4月に県、市のランドワーク事業の認定を受け、ほたるの里自然公園を建設した。今ではほたるやかブトムシの養殖に取り組み始め、お年寄りや子どもたちの憩いの場となっている。ほたるが飛び交う楠谷川を取り戻したい。

●福井町の楠谷川流域の自然を守ろうと、地域住民や横内小学校の子どもたちと共に活動している市民ボランティア団体。毎年5月に実施している「ほたる祭り」は、地区を代表する夏祭

Q&A

- Q 幼虫にするには、条件的には非常に厳しいものがあるが、調査をしているのか？
- A 水質検査も実施している。楠谷川の「ほたるの里自然公園」は、流れの穏やかな日陰の公園になっているので、温度管理もそれほど難しくない。設計段階からいろいろ工夫をし、空気をたっぷり入れ込むようになっている。子どもたちと一緒にほたるの観察や自然環境を学びながら、公共の広い池で、直接ふ化のノウハウを得ていきたい。

運営委員

●田岡 造園、建築関係の方が多く居られ、恵まれた協力体制にあるのが良かった。

活動テーマ 携帯用ホワイトボード作りによる聴覚障害者支援
group.11 NPO法人 要約筆記高知・やまもも



づくりを提案する。作り方はとても簡単で、自分のお気に入りや思い出の布地で作ることができる。高齢者の方にも、自分の思い出の服や、布地で作ったホワイトボードを、自分の子どもや孫にプレゼントしたり、スーパー、病院の受付、薬局など、行く先々に配っていただくと、様々なところで活用できると思う。また、防災グッズの中にも1つ、入れておいてほしい。

●聞こえの不自由な方に必要なことを文字で読んでいただくために、筆記通訳のボランティアをしている。また、日常的に役立つために、携帯用ホワイトボード

Q&A

- Q 次年度以降の資金の見込みは？
- A この講座で1度作った方が中心となり、広めることを期待している。
- Q このほかに、活動の範囲を広げるような計画は？
- A 「NPOと県との協働事業提案」で、要約筆記の出前講座が採択されている。このファンドにおける「携帯用ホワイトボードづくり」を実施し、今後の活動の中で活用していきたい。

運営委員

●玉里 携帯用ホワイトボードを作る際、ただ「楽しかった」で終わらないよう、ホワイトボードの意味合いも合わせて、子どもに理解してもらうことが大事だと思う。

活動テーマ 「[巧名が辻]」放映に伴う観光によるまちづくりへの支援活動
group.10 土佐観光ガイドボランティア協会



するのだが、今、我々の一番大きなテーマとなっている。今年は、愛知県の一宮市で、第12回一豊公&千代様サミットが開かれる。一宮市は一豊の生まれた町であり、千代の出生地は、岐阜県の郡上八幡、今の郡上市という説が有力になっている。今回2人のルーツを探り、現地を目で見、耳で聞き、心で感じてくることが、ガイドをする上で、一番有効だと思う。

●来年はNHK大河ドラマ「功名が辻」の放映があり、観光客が大勢来ることと思う。来年度の大幅な観光客の増加にどう対処

Q&A

- Q 経費について高知市の観光コンベンション協会への折衝等ははたしたのか？
- A 助成金についての折衝は、高知市も含めて話をしていない。会の予算は大変厳しく、残金はほとんどない。助成金が少なくなると、個人負担という結果になる。
- Q 予算を潤わせるために、どのようなことをしているのか？
- A 観光案内所の運営を受託している。研修旅行などは、ほとんど個人負担。

運営委員

●波井 組織的に安定した団体だが、これまでの活動に、新しい視点や、これをやって広げていくという視点を加味することも必要だと思う。

活動テーマ 生涯スポーツと地域活性のまちづくり
group.12 横浜体育会



子どもたちの心と体の健康や、ふれあいの場として「スポーツ少年団交流横浜大会」や、体力測定を行っている。「サマーフェスティバルin横浜」では、地域活性化のため、子どもたちが祭りに親しみ、こみの分別を学習できる場として、保護者の方々からも大いに喜ばれている。その他、横浜園民大運動会では、地域高齢者にも参加を広げている。

●PTA主催の行事は横浜体育会が全面的に応援しており、横浜バザー、ラジオ体操指導、愛校作業、清掃等、子どもたちと一緒に活動している。

Q&A

- Q 今回の助成で、一番メインとなる事業とその特徴は？
- A 「サマーフェスティバルin横浜」がメイン。内容は、地域住民が参加する音楽やフラダンス、園児によるよさこい等、実施に際しては、地域の学生に呼び掛ける。企業の中から選抜した若い人を組み合わせ、公の場で大いに活性化を図っている。
- Q 学習会の内容は？
- A 生涯スポーツ。伝承するため、高知大学の青年とか、先生を講師として招き、継続的にやっていく予定。

運営委員

●玉里 サマーフェスティバルについては、広告収入を上げており、かなり自立した活動をしているように見受けられる。

活動テーマ 「こうちのまち」と舞台芸術を繋ぐアートNPO活動
group.13 高知演劇ネットワーク・演会



ネットする活動として、アートNPO活動の存在がある。活動は、文化行政との協働作業、作品の全国発信。それから、演劇祭など市民が舞台芸術に親しむ機会の提供、アーティストのネットワークの推進、舞台芸術の担い手の育成、舞台芸術による子どもたちの豊かな体験活動の支援。舞台芸術の公益性を自覚していくことを考えている。現在は「ハッダ・ガブラー」上演に向けた活動をしている。

●豊かなまちづくりには文化が不可欠。文化の貧困は、まちの弱点であり、文化の活性化は社会のミッションだと思う。そこで社会とアーティストをコーディネート

Q&A

- Q 演劇だけでなく、他のアートの人たちとのネットワークをまとめていく予定はあるか？
- A 今回、演劇に限らず舞台芸術全般を考えている。また、演劇の関係者と演劇以外のアーティストとのアートでのコラボレーションもやっていきたいと思う。
- Q 予算規模が大きいが、助成金の主なの使い道は？
- A 演劇祭の部分。全体を通しての印刷費、看板代等に使用させていただきたい。

運営委員

●堀 全国でも初のアートNPOということで、演劇以外の部門とのネットワークも結んで欲しい。例えば、県外のアーティストを呼んだりしても面白いと思う。

活動テーマ 地球33番地・地域の掃除を通じて住民をつなぐコミュニティづくり事業
group.15 33フォーラム+劇団33番地



江の口川」にしたい。現在、地域の小学校と活動をしており、川を通じたいろいろな遊びや、地域の方との協働のきっかけとして、掃除をする。江の口川のそばにある蔵で稽古をしている「劇団33番地」の力を借りて、一緒に地域の掃除をし、その活動を互版のようなものや、ホームページを通して広め、ファンをどんどん増やしていきたい。この事業を通じて、住民のネットワークづくりを目指している。

●33フォーラムの「33」は、江の口川の中にある、地球33番地の33から取っており、最終的には、地域の子どもたちが夢に描いた「アユがさかのぼる

Q&A

- Q 地域の住民や、企業、学校との協力は得られているのか？
- A 蔵のオーナーや、一文橋公園の愛護会、町内会と連携を取っており、劇団員と1回の子な掃除をしている。私も地域の方と顔が見える関係を持っているので、これから更に深め、広めていきたいと思っている。また、昭和小学校では、授業にもすでに参加しており、2学期もいろいろな活動を先生方と一緒にやっている。江陽小学校も3月3日のイベントに参加してもらっている。
- Q 33フォーラムと劇団33番地は別団体か？
- A 2団体によるネットワークの活動。

運営委員

●玉里 活動団体や住民、協力団体がしっかりとスクラムを組み、広がり深くある活動を目指してほしい。

活動テーマ べっぴんしゃんで地域元気交流会
group.14 特定非営利活動法人 訪問理美容ネットワークゆうゆう



また、外国から高知に来ている研修生に、日本の文化で着物を通して楽しんでもらいたく着付け講習や、理容技術を生かした地域づくりと、人材の育成を目的に、「中高年のためのヘアスタイル研究会」を月に1回、講習を行っている。福祉美容のボランティア講習会も月1回行っているが、受講者と町内会とが一緒になって、はりまや橋商店街の福の市で、外国の方への着物着付けのイベントをやりたいと思っている。

●老人ホームや、過疎地域の高齢者のところに行き、理美容やメイク、ヘアセット、着物の着付けのファッションショー、名付けて「べっぴんしゃん講習会」を実施している。

Q&A

- Q 高知県公益信託「こうちNPO地域社会づくりファンド」の助成事業との違いは……？
- A 県のファンドは、過疎地域を中心とした地域おこしで、老人クラブと社会福祉協議会と連携した活動。
- Q 関連事業で地域の核となる子ども、高齢者、外国人を対象にして、世代間交流に触れられているが、具体的な内容は？
- A イベント当日に、高齢者の方には、お茶をたてていただいたり、お花を生けていただいたり、いろいろ働いてもらおうと思っている。また、お孫さんも含めた形のイベントにしていきたいと考えている。

運営委員

●堀 着物や帯は、地域の方に提供してもらったという点だが、しま込まれた着物に息吹を与えるという視点で、更に呼びかければ、他の備品も調達できるかもしれない。

活動テーマ 発達障害等の正しい理解と適切な支援を掲げる活動
group.16 発達障害等親の会【KOSEI】



子どもたちの将来に対し、支援を考える団体として設立した。本年度の活動として、年2回の講演会の開催、2カ月に1回の学習会開催、発達障害の子どもたちに対する理解啓発の小冊子作成を予定している。障害のある子どもたちに対し、正しい認識をもち、理解をしていただき、障害のある方が地域で共生し、自立していけるよう支援していきたい。

●知的障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、広汎性発達障害など、発達障害の子どもがいる保護者が中心となり、

Q&A

- Q 今回作るパンフレット、小冊子は以前のものとどう異なるのか？
- A より分かりやすい小冊子を各学校に配布していきたいと考えている。
- Q 県、市の教育委員会や、関連機関との連携は？
- A 実態として、県、市の教育委員会は後手に回っていて、親の会が動かなければ何もできない状態。先生の人数が足りなく、学校現場で教育が崩壊しているのが実情だが、なかなか行政は動いてくれない。
- Q 今回、かなり経費がかかるのはなぜか？
- A 大阪、東京など、県外の先生に学び、高知県で人材をつくる方向にあるから。

運営委員

●中村 発達障害について正しく理解してもらうための啓発や、障害をもっていないが、子育てで悩みをもつ育児サークル等とも、ネットワークも深めていただきたい。

第3回 公開審査会アンケート結果

有効回答数：39人
開催日：2005年7月31日(日)

1 公開審査会を何で知りましたか？

- 運営委員会からの案内 (11)
- 新聞 (2)
- ホームページ (4)
- 最寄りのふれあいセンター (2)
- センターだより「えぬびい、Oh!」(8)
- 最寄りの四国銀行支店 (1)
- その他 (7)
- 無回答 (4)

その他 → 申請団体 (5)
高知市広報「あかるいまち」(1) 市役所 (1)

2 公開の場で審査することについて、どう思いますか？

良いと思う (38) 良くないと思う (1)

良いと思う ●●●●●●●● ●

- クリアで分かりやすい
- 公平、透明性がある
- 公平、審査が明解
- 公平な立場で審査してもらえる
- 民主的

● 質疑応答の公開

- 何をしているのかが分かる
- 審査の過程が分かる
- 公平で良い、問題がよく分かる
- 公平性が保たれる。いろいろな活動を知ることができる
- 審査の状況、理由がよく分かる。密室は疑惑の元になると思う
- 運営委員の審査の視点がよく分かった
- 意見を交わし合って、よく理解できる

- 分かりやすいし、多くの人に聞いてもらうことで、自分達のやっていることをより明確に認識できる
- 何が良くて、何が悪いのかがよく分かる。他団体との交流ができる
- 他団体の存在、活動内容、今後の付き合い
- いろいろな団体が活躍していることが分かった
- いろんなグループの活動内容が分かる
- いろいろな団体の活動が聞けて大変勉強になった
- 他人達が沢山のアイデアをもっていることが分かる
- 同じ思いをもつ団体の方と今後つながりをもっていけるきっかけになった
- もっと広く知ってもらいたい
- 度胸もつくり、自分たちの活動の自問自答ができる
- 審査の最終判断は、過半数で切った方が良いという意見が聞けた
- 初参加であったが良かった
- これからの人もよく勉強できる
- ドラマがある

良くないと思う ●●●●●●●● ○

- 審査時間が限定されてしまうのではないか。団体の実態を精査できないように思う

3 今日の審査会について、どう思いましたか？

良いと思う (29) どちらとも言えない (1)

良くないと思う (4) 無回答 (5)

良いと思う ●●●●●●●● ●

- 透明感
- どういう基準で審査しているか、よく分かった
- 公正だと思う
- 運営委員が真剣に審査している姿が伝わってきた
- 運営委員の意見
- 運営委員とプレゼンターとのやりとり
- いろいろな意見が聞ける
- 質疑応答の公開
- 質問を受けて、説明ができる
- 公開の場で直接審査してもらえるのが良い

- あまりははっきり理解できない面もあったが、面白いと思った
- 楽しい良い会だった
- 他のグループの取り組みが分かる
- 緊張感もあり、他の団体の話も勉強になった
- 本当に必要なグループに助成されれば良いと思った
- 応募団体の内容や活動が興味深かった
- 運営委員のアドバイスや意見などで、また新たな目標をもてた
- 審査という点では良かったけれど、多くの団体が助成してもらえた
- ドラマがあった！

良くないと思う ●●●●●●●● ○

- 運営委員の考え方によって、左右されているような点がみられた
- 五里運営委員と同じ意見。6票の団体が切っておくべき
- プレゼンテーションの時間が短い。5分は欲しい
- 時間が長い
- 一次判断の後の質疑の時間配分をきっちり (最初が長すぎ)
- 分かりやすいが、会場からの質問も受け付けられないと不満が残る (私語も多かった)

4 あなたの年代をお教えください。

20歳代 (3) 30歳代 (9) 40歳代 (12) 50歳代 (5)
60歳代 (6) 70歳以上 (3) 無記入 (1)

5 参加されたあなたの立場をお教えください。

発表者 (13) 発表団体の一員 (19)
まちづくりに関心のある一市民 (2) 行政職員 (0)
専門家・コンサルタント (1) 取材 (0)
その他 (2) → 発表団体の支援団体・主婦 無記入 (2)

6 その他お気付きの点があれば、ご記入下さい。

- とても勉強になった
- 自分たちができることで、各地域で頑張っている人が、こんなにたくさんいることが分かり、頼もしく嬉しく思った
- 9分の2で合格、少し疑問が残る。その団体がどうかというより、全体レベルの底上げが必要か？
- 最後の審査の仕方に多少疑問が残った
- 今日のような最後の1グループをどうするかという話し合いは、公平性に欠けると思う。ある程度、審査基準をもうけるべきだ
- 一次判断後の質疑と、プレゼンテーション後の質疑のやり方を調整できないか。プレゼンテーションの時間が短か過ぎる
- 予算として提出された額、そのまま支給するには疑問がある。例えば講師費などには、やはり必要性を感じないので、不要部分に関しては支給額を減らして、その分、落選した団体に回すことはできないのだろうか
- 発表を聞いていて、自分たちが無料で運営する方法など、いろいろ教えられることが多かった
- 同じような地域のイベントをしている所が多いのが分かった。もっと特色のある発展性のあるのが出てきたらおもしろい。そして物を買うためでも、節約することを考える
- 「ワークショップ」という言葉は、特別な団体・思想の活動ですか？勉強不足で分かりません
- 時間に限りがあるので、審査会での応援意見やアドバイスは時間のムダであると思う (その関係で終了が遅れるのは迷惑)
- 1人の運営委員の質問がとても多い
- プレゼンテーションと提出資料が審査対象になるだろうが、その団体の実態や実績も、きちんと事業のできる団体なのかということをよく把握して欲しい
- 発表団体が一律3分というのは逆に不公平ではないか、内容が一読して分かる場合と説明しないと分かりにくいものもある。事前の申し出で、2分 (短め)、3分、4分 (長め) 内で調整してはどうか
- 発表団体がもっと増えたらどうするか？
- この場に参加させていただき、ありがとうございました。関係者の皆さんお疲れ様でした!!
- スタッフの方にも大変お世話になり、ありがたく思っている

「まちづくり一歩前へ」コーナーには、十六団体の応募がありました。高知市こども劇場三十四年、高知のちのちの電話会館十九年、土佐顕光ボランティア協会十七年、高知・家庭少年友の会十二年など、今年は歴史が長く、会員数の多い団体からの申請が目立ちましたが、これまでの活動との違いや、ファンドとの関係を確認に伝えていただきたいと思いました。

また、今年は四団体が二回目の応募で、若草ほのぼのの会、ボラの会、演劇ネットワーク、演劇会が二年連続、訪問美容ネットワーク、ゆうゆうが一年おいての応募でしたが、一回目の成果と二回目の展開が明確に表現されていない点が気になりました。一年目は少し失敗もしながら何か成果を出し、二年目は一年目に失敗したことを乗り越えて、地域や、内部の人たちの密度を上げるなど、新しい手法で横に広げる。三年目は一番新しいのですが、それ以降、継続している新たな展開の形をもつという三年計画、または、一年目は助成を受けて活動し、二年目は助成なしで活動を続け、三年目にさらなる二回目の助成、四年目はまた助成なしで活動を続け、五年目には最終助成を受けるというような五年計画があつていいと思います。

いずれにしても、今までの県や市のファンド、補助金、助成では得られなかった新しい市民ならではの視点で、また、高知ならではの独特な活動方法で、地域のまちづくりを進めていただきたい。多種多様なテーマを進めていた方が、多岐にわたって踏まえた参加型のまちづくりを進めていた

助成が決まったグループは、これから一年間、市民ならではの「まちづくり」を積極的に進めてください。また、今年は運営委員の半分が支持しなかったグループにも助成することになりました。そのグループは特に気を引き締め、新たな気持ちで最終発表に向けて活動をしてください。残念ながら、今回、助成を受けられなかったグループは、さらに企画を煮詰め、来年また応募していただきたく思います。

どうもありがとうございました。

運営委員長 卯月盛夫
(星田田金教授)



見守り委員感想



1 意欲を見せる若者たち

公開審査会では、大学生や20歳代の応募も多く、若い世代の人が頑張っていた。大学などを通して、まちづくりの情報交換が活発に行なわれ、若者たちになじみやすいのかもめい、反面、地域で古くから活動している人たちは、意外とまちづくりファンであることを知らないのではないか。

若者たちの提案には、彼らのネットワークで活動が広がるようなグループもあり、1グループの助成に留まらず、それらをどうつなげていくかま考えられているのではないか。

若い世代の提案者たちは、演劇やダンス、スポーツなど自分ができることで何か役立てるということを見据えている。こういう視点があれば、高知でもいろいろのことが起こり、熱くなっていける。

若い世代の人がファンに興味をもって参加してくれている。ボランティアをしたいという人たちも多く、横のつながりももっと太くなれば面白い。ただ、今は学生も時間があがる、今後仕事に就けばどうなるか。

ストリートダンスで助成を受けたことが、新たな意欲をかき立てただけでなく、彼自身の重みや看板にもなった。ダンス講師の依頼や世界大会に出場するようなダンスチームを呼べる結果にもつながっている。

2 公開審査会で生まれる「まちづくり」の芽

公開審査会是非常に楽しい雰囲気であった。交流や学習、情報交換の場としての役割も果たしていた。

なおまちづくりに関する情報を得たり、いろいろ参加しているが、公開審査会の参加者の多くは、自分ができることは何だろうと考えているのではないかと。会場を見て活気があると思った。久しぶりにすごく楽しいと思える時間だった。関係者でなくても、この催しは見てもらいたい。もっと広い会場でもっといいくらいに思う。それぞれの活動の話を聞いただけで、自分のまちづくりの芽が育ちた感じがたたくさん見つかる。

全体として交流が始まっていると感じた。1人の個人が活動組織に入り、そこから組織同士の交流が始まり、まちづくりにつながっていくという予感がした。

「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例見守り委員会」は、「高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」(2003年4月制定)により、その条例が機能しているかを見守ると共に、市民への啓発を目的で発足しました。高知市まちづくりファンド公開審査会、最終発表会に参加しての感想や意見を頂きましたので、紹介します。

豊かな地域社会をつくるための地元の人たちの活動と、場所にこだわらず自分たちのことを役立てたいとする人たちの活動の2つの流れがあったように思う。ファンドでの交流を通じて、触れ合って、新たなまちづくりの意識が芽生えていくのではないかと。

市民の活動は泥臭さも良くて、地道に積み上げていく(左脳)部分と、想いで動く(右脳)部分を大事にしながら、両方がかみ合う形になっていけばいい。

3 去年より今年、成長する公開審査会

最終発表会でも、当初の発表よりも前進した内容となっており、継続できるグループもあって勉強している印象を受けた。各団体のプレゼンテーションでも自己表現ができており、発表の質の高さに驚いた。

去年よりも今年の方が事業内容や審査の面でも良くなったと感じた。一般の参加者は楽しいが、運営委員は大変だと思う。プレゼンテーションの場で、助成先を決定するまでの審査をすべて公開するやり方は珍しく、その分このファンドの特徴や中身が問われるのではないか。

4 今後につなげていくために

公開審査会のPRを工夫して多くの人たちを集めることができれば、「まちづくりははじめの一歩」への参加にもつながるのではないかと。

公開審査会の場だけでなく、日頃からグループ同士が交流し、連絡し合えるようにすれば、年々横のつながりが広がるのではないかと。

プレゼンテーション能力や予算書作成能力は大事であり、それらを教える機会など、中間的な支援も必要ではないかと。

助成を受けた団体は、きちんと課題をつかみ、やろうとしていることの把握はできている。ただ、今後のビジョンが弱い感も見受けられたので、来年の助成が無ければどうするか、今後どうつなげていくかという質問も流れたことが、大変重要な課題になってくる。

2004年度

公益信託 高知市まちづくりファンド

第2回 最終発表会

最終発表会の流れ

2005年7月30日(土)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド・第2回最終発表会」には、応募団体、一般合わせて、約60名の参加があり、「まちづくりはじめの一步」コース3団体、「まちづくり一歩前へ」コース8団体が助成事業の成果を発表しました。

1 プレゼンテーション

1年間の最終報告を、模造紙1枚にまとめ、助成先団体が3分間で発表



2 意見交流

運営委員や参加者からの感想、また質疑に対し、助成団体が応答



「まちづくりはじめの一步」コース

● プレゼンテーション

活動テーマ 子育てを楽しくするための支援活動

group.1 育児サークル「トトロ」



●主な活動は、週1回の定例会、月1回のイベント、2か月に1回の「トトロ通信」の発行など。月1回のイベントでは、障害者施設「アドレス・高知」の庭で、入所者と焼き芋大会をした。初めて参加をした方から、「近所に友達がおらず、家にこもりがちだったが、参加してリフレッシュすることができ、友達ができて大変良かった」という声をいただいた。

意見交流

Q:メンバーを育てようという体制になっているか?

A:転勤等で異動が多く、メンバーは一時少なくなったが、地域の施設やスーパーへの張り紙、新聞での呼びかけによって、登録者はまた30人程となった。永住者により、三里地域に根差した活動が継続できればと思う。

VOICE

大変楽しく活動していて、心温まる思いがある。

活動テーマ 観光案内商店街

group.2 カフェ・ナビプロジェクト



●帯屋町商店街、はりまや橋商店街、魚の棚商店街を中心としたまちの聞き込み調査をして、地元の人たちから見る観光スポットを探す活動をした。商店街の地図を作成し、喫茶店内に掲げてもらった。難しかった点は、地元の人を中心としたマップ作りを目指したために、情報量が多くなりすぎたこと。良かったことは、調査することで、人とのつながりが生まれたこと。

意見交流

Q:情報はたくさんあり、惑わされるものだが、自分たちのサイズで考えることが、難しい点をクリアすることだと思う。今後の活動はどういう展開になるのか?

A:今回得た商店街の活性化と、観光客や商店街を結びつけるという考え方を通して、別の形で活動を行ってきたい。

VOICE

聞き取り調査の結果を基に、商店街の方と話し合いの場を設けるなど、双方向の関係性が生まれると、内容がもっと豊かになると思う。

活動テーマ 活動したい学生のみならずボランティアネットワークのマッチングを図って、げんきな街こうちの力になる

group.3 こうち学生ボランティアネットワーク「ボラの会」



●ボランティアの仲介、コーディネート、情報の発信等を主な活動としている学生の組織。リーフレットを作成し、県内の大学、県市の関係部署へ配布したり、このファンドで知り合った「いこうちや」の祭りでフリーマーケットを出展した際、新聞の取材で知名度もアップした。1年前30名程だった会員も100名を超え、今後はそれぞれの活動の点と点を線につなげていく活動をしていきたい。

意見交流

Q:ニーズの捉え方、活動のビジョン、組織が大きくなった時のまとめ方は?

A:リーフレット作成により、たくさんの情報が寄せられ、学生に力を入れて広報活動を行っている。運営体制としては、現在、運営委員が少なく、困っている状態。運営してくれる学生を積極的に募集し、1,000人規模になった時に耐えられるしくみをつくっていくのが今後の目標。

Q:前回の中間発表時より、マッチング率は上がってきているのか?

A:学生が直接、団体にボランティア参加しているので、その情報が入るような仕組みを検討中。

「まちづくり一歩前へ」コース

● プレゼンテーション

活動テーマ ふれあいスポーツひろば

group.1

田中きよむゼミ



●サッカーを通して、障害のある方とコミュニケーションを図る活動をした。事業の前半はアドリブだったが、後半はコミュニケーションをもつ時間を設け、1対1でできる練習、チームワークやスピードを求められるメニューを作った。ルールを理解してもらったのが難しかったが、コミュニケーションの取り方、練習の仕方、お金の使い方などを工夫したら良かったと思う。サッカーの待ち望む参加者の笑顔を見て、保護者も感動してくれた。

意見交流

Q 今後の予定は?

A 人数も増え、去年は全国障害者スポーツ大会に参加させていただいた。ゼミ生4、5名とサッカー部にも声をかけており、今後も続けていきたいと思う。

Q 練習を1対1にしたのは?

A 知的障害だけでなく、身体障害もあるので、1対1がベストだと思った。

VOICE 障害者のある方と学生の双方にいろいろな気づきがあり、基盤もできたという成果を聞き、ぜひ継続してほしいと思った。

活動テーマ 若草ミニデイサービス

group.2

若草ほのぼのの会



●ファンド助成決定後、朝倉地区社会福祉協議会からも補助金をいただけるようになった。ほぼ毎月、さまざまな活動をしているが、今後も地域の人々とのつながりを大切にしていきたい。行楽的な行事の参加者は多いが、消防や防災などは参加者が少ないことが課題。高齢者なので、入院や通院が理由で、参加人数が多少減っているが、アンケートでの要望があり、今後は若草町以外の地域の方にも参加していただく予定。

意見交流

Q 老人クラブのミニデイサービスにおける補助金はもらえないのか?

A 老人クラブの主催ならば補助はおりるが、私たちは地域全体で自主的にやっており、補助はもらっていない。

VOICE 年齢を越えた参加事業になれば、ボランティア参加の形が生まれるかもしれない。

行政との折衝、対応をこまめにし、計画的に行事を進めていて非常に感じている。今後も長く続けていただき、地域住民が元気に生活できるような基盤となってほしい。

活動テーマ 竹との共生をキーワードとした、住民参加による里山保全活動の実践と啓発

group.3

秦山の竹林と友達になろう会



●竹林を活用するには、地権者の承諾が必要なので、その心をしっかり把握することが大切。活動する中で、保護者やPTA、生協が活動に理解を示してくれたこと、東京近郊の都市担当官や、大学のゼミ、放送局のディレクターが取材や見学に来てくれたことが嬉しかった。自分たちの育てる里山で、孟宗竹(モウソウグク)に負けないような健やかな人間を育てる気概が生まれつつあり、今後も引き続き活動をしていきたい。このファンドがきっかけで、「ボラの会」も活動に参加してくれている。

意見交流

Q 地権者の心を把握するとは、具体的にどういうことか?

A 先代とのコミュニケーションの中で話が進んできたことでも、新世代の方になると考えが異なり、「山は危ないから駄目」とか、「山荒らし」という感覚があったりする。現在の地権者の考えを私たちがしっかり理解することが必要である。

Q 秦山は、里山指定の第1号だと思うが、行政との連携は?

A 現在、環境保全課と相談している。

活動テーマ 土曜市にいこうちや

group.4

いこうちや



●3月26日「いこうちや祭」を開催した。参加者や協力者を募集するのが大変だったが、よさこいやストリートダンスを披露するなど、新しい風を吹き込むことができたと思う。当初の目的であった土曜市の活性化は、まだ成果が現れていないが、このような単発イベントは、長期的に実施することで効果が現れると考えている。また、「定期的にやってほしい」といった声もいただいた。学生にとっても、発表をする機会を得られたことは、刺激のある体験であった。これからの土曜市は、若者の参入による変化も求められていると思う。

意見交流

Q 既存の出店者との意識の違いは、事前に「これから、こんなことをしていきますか」と呼びかけ、一緒にやっていくことで、お互いの理解も深まり、楽しいこともできるのではないかと?

A できれば話し合いをする場を設け、一緒に盛り上げていきたいと思う。

Q 今後の予定は?

A 「いこうちや祭」は、高知県民に土曜市の存在を知ってもらおうきっかけとして位置付けている。今後は、「土曜市を使って何かをしたい」という人々を助けられる組織をつくりたい。



活動テーマ
子育てを通して
温かい三世代交流の和

group.5
子育てサークル みかづキッズ

●親子のコミュニケーション活動として、主に初月ふれあいセンターで、豆まき、鬼のお面づくり、ビーズ工作、ひな祭り、お別れの集い、お花見を実施。3世代交流健康体操は、3B体操大会を初月小学校体育館で開催し、7月に3B体操みかづき教室を開設。地域の人々の健康づくりに大いに役立った。子どもの成長と共に、スタッフも毎年替わるため、継続的な活動は難しく思われるが、平成9年に転勤族の井戸端会議から発足した原点に戻り、親子のコミュニケーションを生かした活動を広げ、支援者を増やしていきたいと思う。

意見交流

- Q 3B体操への男性の参加は？
- A 3世代ふれあい3B体操は、音楽にのって楽しく踊ったり、ストレッチも入れたりした健康づくり体操。男女を問わず、参加していただきたい。
- Q 救命救急の講習について、どのように考えているか？
- A 救命救急の講習は、集まりがとて多かったです。子どもの命を守るといことで、関心をもって聞いている。毎年続けていきたいと思う。

VOICE 3世代交流と、男女ともに生きる視点がとてもいいと思う。



活動テーマ
ストリートダンスを通じて、
若者による新たな
まちづくりの参画

group.7
若者によるまちづくり委員会

●ゲストチーム「ギャンプラー」を呼び、ポスターやチラシを作ることができ、県、市の機関紙、新聞、テレビ、ラジオの放送や掲載につながった。ダンサー自らが広告をつくり、第2土曜日を「ダンスの日」として、今では300人ほどが集まっている。若者のまちづくり委員会は手助けのみだが、今後の取り組みには、それらを支えるサポーターが必要。10月23日の中央公園でのイベントでは、子どもたちが企画・運営をする。

意見交流

- Q 若い人たちが責任感をもった行動をするようになったということ、今後を楽しみにしている。障害のある方や高齢者に対して、アプローチする計画はあるか？
- A ダンス教室を作りつつある。
- Q 確実に人と人とのつながりをもつために、ボランティア要員として、例えば、「ボラの会」などにアプローチしてみたい？
- A 是非、そのように進めていきたいと思う。また、ダンサーの中には、ボランティアをやっている方もたくさんいるので、そういった方面でも頑張っていきたい。



活動テーマ
演劇によるより豊かな
文化・芸術のまちづくり

group.6
高知演劇ネットワーク・演会

●静岡県へ行き、全国的にも有名な劇団と交流して、作品への取り組みの話し合いをした。この学習で得たことを高知に還元させたいと思う。子どもを対象とした演劇体験、まちでの演劇イベントなど、活動がようやく認められた中で、文化行政との提携も進んでいる。大きなイベントでは、「演劇祭 KOCHI」があり、年々、質、参加者共に膨らんでいる。市民に対して演劇を浸透させ、中学生や高校生に対しての関わりにより、学生演劇を支援することも考えている。

意見交流

- Q アーティストとまちのコーディネートや、総合学習、文化行政への提言とは？
- A 高知に演劇文化を根付かせていく中で、「自分たちに求められているものは何なのか」を考えた。まちのアーティストと、大きな施設との隔たりを埋めるため、積極的な提言や、指定管理者制度、高知県の文化行政などについても学習している。
- Q 観劇ラシーを全部見ることにより、「完全制覇」という非常に良い仕掛けを考えたと思う。感触はどうだったか？
- A マスコミでも取り上げられ、観劇ラシー共通パスポートの申し込みが大変多かった。アンケートでは、「演劇を初めて見た」という回答も多かった。



活動テーマ
ちょっと昔のはりまや橋、
昭和10年代から40年代の
画像でふりかえる

group.8
はりまや橋商店街振興組合

●10月に「懐かし写真展」を実施。以前、商店街に住んでいた方、昔の写真を収集していた方から写真提供を受け、はりまや橋商店街のみならず、広い地域の写真を空き地に設置したラティスに貼り、10月、2月、5月と展示した。今後は、はりまや橋商店街と大橋通商店街の「橋と橋の架け橋」ということで、はりまや橋商店街の防災マニュアルや、互いの昔の写真を展示し合うという計画もある。

意見交流

- Q 「小学生になつたし写真展クイズ」とは？
- A 5月5日、子どもの日に実施。10カ所の写真とヒントをお店に置き、どこの場所かを当てるクイズ。親子に景品を進呈した。

VOICE 将来、何十年か後の写真展のために、今の商店主と商店をセットで写真に撮り、残しておく、面白いかも知れない。

東京都でも莫大な予算を組んで、一昔前の町並みの写真を集めているようだ。今の写真を次の時代へ語り継ぐための非常に貴重な取り組みだと思う。

第2回 最終発表会アンケート結果

有効回答数:7人
開催日:2005年7月30日(土)

1 当ファンドの助成金を受けて良かった点は何ですか。

- 事前に活動資金が決まっているので、常に資金不足を心配しているスタッフが、安心して活動企画・運営に専念できた
- 必要備品の購入ができた
- 活動用の消耗品が買えた
- 子どもたちを主体にした活動で飲み物を買うことができた
- イベントを数回実施できた
- 次年度以降へのステップの基礎ができた
- 懐かしい写真展を続けていくきっかけができた
- さまざまな人とつながりができた
- お金の使い方を学ぶことができた
- 1年前と比べ、知名度も上がり、活動の場が広がった
- できることの幅が広がった

2 公開審査会で工夫したら良い点について、ご提案がありましたら、ご記入下さい。

- もう少し発表時間が欲しい。プラス2分程度
- 発表する時に模造紙がなくても良い場合を作って欲しい
- 全体の時間配分を考慮すると仕方ないが、発表者としては、もう少し時間があつた方がよい。
- 「ネットワークの広がり」どうすれば良いだろう？

中間・最終発表会で工夫をしたら良い点について、ご提案がありましたら、ご記入下さい。

- 休憩(交流会)の時間を倍増してほしい
- 参加者から見づらい席があつたので、座席のとり方に工夫をしては？



- 中間発表の時の付箋が良かった (より多くの意見をもらえ、また見やすい)
- 中間発表については、助成を受けている側からすると、負担増の感がある

4 2回目のファンドへの応募は検討されましたか？

①2回目も応募している → 1

<応募している理由>

- イベントを企画しているので、助成してほしいと思った

②2回目は応募していない → 6

<応募しなかった理由>

- 今後の見通しが立っていない
- 申請書提出、中間・最終報告など、事務処理の対応が、多忙な中で負担である
- 申請書提出を忘れ、期限を過ぎていた
- 必要備品を購入した為、他の団体に助成金を受けてほしいと思った
- 新しいアイデアもあるので、データの蓄積をし、次回は応募したい

5 その他ご自由に、お気付きのことがありましたら、ご記入下さい。

- こうした発表会そのものが、おもしろいと思う
- 参加者同士の交流が、もっと図れたら良い
- 「大切な出会いの場」となっている
- 30万円の助成は大変ありがたく、嬉しかった
- 総額予算を増加する方向で検討してほしい
- 高知が更に明るく活気ある町になるよう、このような取り組みは未長く必要である
- はりまや橋商店街は、再開発で1998～1999年に木造アーケード店舗の改修建て替えを終えたが、ソフト事業が未成熟のまま7年の時が過ぎてしまった。多くの協力者と共に、地域に根ざした活動を続けていきたい

第2回 最終発表会アンケート結果

有効回答数:13人
開催日:2005年7月30日(土)

1 最終発表会を何で知りましたか？

運営委員会からの案内 (8) 新聞 (0)
ホームページ (1) 知人からのロコミ (2)
センターだより「えぬびい Oh!!」(0)
その他 (2) →<発表者(1) 発表団体員より(1)>

2 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか？

100% (4) 95% (1) 80% (2) 60~70% (3)
20% (1) 無回答 (2)

100%

- 初めの参加だったが、いろいろな団体が存在し、高知のまちをつくっていることを知ることができ、良かった
- 他の団体の活動が分かった。明日開催される公開審査会で発表する際の参考になった
- 障害のある方や、子どもから大人まで、広い対象のまちづくりが行われていることを知ることができ、良かった。いろいろな視点でまちづくりを見ることができた
- それぞれのグループがまちづくりの難しさを経験したり、活動を通して、より多くの人に希望をもっていただいていたことをとても実感することができた

95%

- いろいろな団体の発表を聞いていると、どの団体にも独自の個性があり、非常におもしろかった。プレゼンテーションにもっと力を入れてほしかったという気はする

80%

- 他の団体の活動が分かり、頑張っているのを見ることができて良かった。発表時間が短いのが残念だった

60~70%

- プレゼンテーションに差を感じた
- 全ての思いを込めて、発表ができなかった(できれば5分以内にして欲しい)
- 審査会よりも報告の方が長くなるので、3分間のプレゼンテーションでは言い切れない

20%

- 3分のプレゼンテーションで全てを話すのは無理だが、やりきらないといけない



3 参加されたあなたのお立場を教えてください。

発表者 (5) 発表団体の一員 (3)
まちづくりに関心のある一市民 (4) 行政職員 (0)
専門家・コンサルタント (0) 取材 (0)
その他 (1) →<元運営委員>

4 あなたの年代を教えてください。

20歳代 (5) 30歳代 (3) 40歳代 (3)
50歳代 (1) 無回答 (1)

5 その他お気付きの点があれば、ご記入下さい。

- まちづくりにおいて、「人」の重要性を感じた。人材の育成がこれからの課題だと思う
- 委員のコメントやアドバイスに「なるほど」と思った
- 参加していた子どもが少い感じがした
- プレゼンテーションの時間が短い
- 大学生にとって時期が悪い(テストの次の日)
- 自分の小ささを感じた
- プレゼンテーション力、活動力、計画性、全てにおいてもっと力をつけ、頑張らなければいけないと思った
- 資料に運営委員の紹介をしただろうか？
- 支出内訳の書き方を工夫した方が良いのでは？(テーマの内容を詳しく知るために)
- 文化をまちづくりと半信半疑で捉えていただき、助成してもらったので、その判断は間違っていないかと運営委員の方々に確認してほしい思いで、今日の最終発表会を迎えた。社会の直接的な弱点をカバーする活動ではないが、ファンに応募し、ハードルを越えることで学習や理論だてが進んだ。自分たちの活動を自覚し、照射される存在として、このファンに応募させていただき、嬉しく思う。ありがとうございました
- 返戻金が出るほど予算に厳しくなったと考えるとよいのか、あるいは、当初の計画が見通しが甘かったのか、十分な検討が必要だと思う
- 3分は短い、訴えるポイントの絞り込みができる長さだと思った
- まちづくりファンを通じて、地域の人々のことも考えながら活動してきたが、気がつけば自分のためのスキルアップになり、1年前より大きく成長したことを感じた。この活動により、人との関わりは自分を大きく成長させる。次の世代を担う子どもにも伝えていきたいと思う。ありがとうございました
- 来年こそ、忘れず応募するぞー！

一年前の第二回公開審査会で、「若者のエネルギーを冷めさせる」と申しました。高知県民は熱しやすく冷めやすいと言われますが、助成を受けた若者のグループは五つとも、若者ならではの視点で成果を上げており、大変良かったと思います。

特に「ボラ」の会は、積極的に、あるテーマに基づいて何かをする人達をソフトにつなぐグループですが、助成を受けた三グループほどか声がかり、お手伝いも参加をしたと伺いました。「こうちや祭」ではフリーマーケットをして、かなりの収入があったようです。「いこうちや」「ボラ」の会、双方のグループによって重要な相乗効果の高いネットワークがあり、そういうつながりが高知の一つの特徴だと思います。

また、「若者」のネットワーク「ダンス」と「演劇ネットワーク・演会」も特徴がありますが、地道なまちづくりは、地域の中で評価されませんが、これらの団体はその地域を越えて、高知県全体、四国まで広がっているのかもしれない。そういう広範な情報発信性をもっている活動は、多くの市民が応援したくなるような魅力的な要素を有しています。民間の大きな財団や企業のファンダは多く見られる活動ですが、ローカルファンダで「地域に根差す」というスタンスを同時に持つことが大きな特徴です。継続すると共に、豊かに発展してほしいです。新聞に掲載される機会も多いと思いますが、私たちの活動の一部は、公益信託まちづくりファンの助成を受けています」と一言、記者にも伝えていただけたと、寄付をしてく



ださる方も、応募をしてくださる方も増え一層輪が広がっていくと思います。

継続が難しいと感じるグループは、三年計画を立ててみてください。一年目が準備だとすれば、二年目は金銭的に小さくやり、三年目は活動の最終目標となるような形で、是非、中期の考えをみましょう。

最後に、市民参加の事業が行われた時、最終的に出てきたデザイン、形や仕組みを、「いか悪いか」ということで評価するのではなく、一年間と現在を比較して考えてみてください。どんな進歩を思い起こしますか？この一年間で、こんないい人を知り合っただ、その人から自分の知らないことがあった、今まで経験しなかったことを学んだ、あるいは、今までできなかったことを学んだ、この一年間で私は成長したんだなあと感じるものがあつたとすれば、それはこのファンの一番の成果だと言えます。

知り合った人を「大事だ」と思えるということは、おそらく相手もそのように思ってくださっていることでしょう。皆さんの鼓動、皆さんの思いが伝わり、「幸せだな」「気持ち良かったな」という時間を共有することができていたのだと思います。

● 運営委員の紹介 ●

 運営委員 伊月 盛夫 <small>(甲福田大教授)</small>	 高知市まちづくりファンダは、運営委員と申請者の質疑応答や、議論の過程を公開し、民主的に審査する方式をとっています。中間・最終発表会では、事業の成果だけではなく、失敗談も交えてご紹介いただく、今後、市民の方々がまちづくりを進める上で、参考になると思います。	 運営委員 木村 重栄 <small>(元高知市市民生活部長)</small>	 高知市が「住民参加型」の市政を目指すという取り組みを始めて約12年。まちづくりは、自分たちの住んでいる地域、暮らしに対する愛着や思い入れが基本となり、必然的に芽生えてくるもので。ネットワークを野に。信頼関係を築きながら継続できる取り組みを心掛けてください。
 運営委員 田岡 真由美 <small>(株・相愛)</small>	 今回の発表会で最も印象に残ったのは、「ファンダを通して自分たちの活動の意味を伝えるきっかけになりました」という言葉でした。ファンダの成否は皆さんにとって重要なことですが、ファンダに応募するために書類や資料を作成したくさんの前で作成する、という過程も、実は重要な意味をもつのです。今後より一層、応募の裾野が広がることを期待したいと思います。	 運営委員 中川 洋行 <small>(株)高知市まちづくり研究所 中川研究室長</small>	 まちづくりは、1人の「これをやりたい」という思いから始まり、同じ思いをもった人々が分かち合う中で、協働の営みとなります。さまざまな理想をもったグループが活動する中で、更に新しいつながりや活動が生まれ、人の輪の広がりをつくって出していく。これがまちづくりの真髄です。
 運営委員 半田 雅典 <small>(高知県ボランティア・NPOセンター)</small>	 地域に根差したまちづくり、地域を飛びこえた広域的なまちづくり。文化や芸術を通して心から動かすようなまちづくりと、さまざまな団体の応募が増えました。今後、継続あるまちづくりへと発展させていくために、資金を自助努力でどれだけ抑えていくか、ということをお考えの暇に入ってきたと思います。	 運営委員 増田 和剛 <small>(高知中・高等学校教諭)</small>	 火付け役であるそれぞれの団体が、まちの火花をたくさん打ち上げることで、いつか気が生まれ、まちづくりの活性化につながっていきます。それぞれの熱い主張をどのように見せていくかが大事ですね。問題を地道に提言することも、お金をかけずにできることのひとつだと思います。

第二回最終発表会を終えて
運営委員長 伊月 盛夫
(甲福田大教授)